

藍住東中学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ・よく分かる、魅力ある授業をつくる。
～指導法の工夫とICT活用を図る～
- ・主体的に学習する力を育成する。
～自主学習ノートの充実と生活記録の活用を図る～

学力向上検討委員会構成

- | | | |
|---------|--|--|
| 学力向上推進員 | 校長 領田佳之
研修主任 教諭 橋本 守
教務主任 教諭 林 昭徳
学年主任 教諭 西田まゆみ
生徒指導主事 教諭 沖野達哉 | 教頭 下川 隆
教頭 仁木博史
学年主任 教諭 小倉真治
学年主任 教諭 村岡文英
人権教育主事 教諭 齋藤雅人 |
|---------|--|--|

校長 領田 佳之 

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 授業や定期テスト等の状況から、基礎的・基本的な知識・技能については、ある程度の定着が見られる。	・授業に集中して取り組み、宿題や生活記録が期日を守って提出できる。 ・基礎や基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。	・宿題や生活記録の提出率が80%以上となるようにする。 ・定期テストの成績が平均点が50点以上になるようにする。			
課題 学習の習熟度の状況に二極化の傾向があり、単元や分野によっては、授業内容が十分に理解できない生徒も存在する。	具体的方策(教員の取組) ・毎月1回程度実施する「レッツスタディ」を全教職員で充実させ、実施する。 ・計画的に宿題を提出させ、生活記録の充実を図り、自主学習ノート・生活記録の優良生徒を表彰する。	取組指標 ・「レッツスタディ」を全員が取り組み、テストで生かされているかの確認をする。 ・宿題・生活記録・自主学習ノートの確認を毎日行い、評価していく。		評価	次年度における改善事項

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 自分の考えや意見をわかりやすく相手に伝えられるように、文章にまとめたり、発表したりすることができている。	・課題発見に繋がるよう読書を進んで行える。 ・新聞を読むことで課題と解決方法の手法を身につける。 ・収集した情報を元に、筋道を立てて作文したり、話し合いを持ったりすることができる。	・学級に配布される新聞が、しっかりと読める生徒を50%以上にする。 ・テスト等で文章化されたものが理解できる生徒を50%以上にする。			
課題 資料から課題を見つけたり、他者と意見を交換しながら、課題を解決していく力が十分に身につけていない。	具体的方策(教員の取組) ・学校図書館運営の充実。 ・新聞を読むことを勧め、新聞を読む習慣を身につけさせることで、必要な情報の収集能力を育成する。 ・収集した情報を元に、筋道だった作文や言語活動を行い言語能力の向上を図る。	取組指標 ・図書室を利用する者が50%以上をめざす。 ・読書週間を利用し、全生徒の読書ができる体制を整える。		評価	次年度における改善事項

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 授業には概ね意欲的に取り組むことができている。自分の学力を向上させようと努力している。	・自分の将来像を考え、学習の必要性和人生設計について考えることができる。 ・努力と成果の相関性について自ら積極的に考察することができる。	・授業中に意欲的に取り組み、発表者が学級で30%を超えるようにする。 ・学習成果がテストの結果に反映し、実感できる生徒の割合を50%をめざす。			
課題 学習と部活動の両立について、計画的な学習を十分に行うことができていない生徒が少なからず存在する。	具体的方策(教員の取組) ・考査後の「エラーズ(見直し)」の充実を図ることで学力の定着を図ると共に、次回への学習方法再検討を図らせる。 ・キャリア教育の充実を図ることで、部活動と学習の必要性について熟考させる。	取組指標 ・「エラーズ」ノートの全員提出を確認する。 ・保護者との連携を図り、キャリア教育に対する理解を求め、また、学習と部活動を両立させるために支援する。		評価	次年度における改善事項

平成27年度 学力向上ロードマップ

